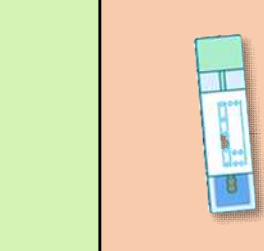
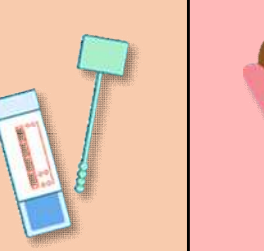




がん検診を定期的に受けましょう



	胃がん		肺がん	大腸がん	子宮頸がん	乳がん
検診方法	胃X線検査	胃内視鏡検査	胸部X線検査(+喀痰)	便潜血検査(2日法)	子宮頸部細胞診検査	マンモグラフィ検査
						
	発泡剤(胃を膨らませる薬)とバリウム(造影剤)を飲んで、胃のX線写真を撮り、胃の粘膜を観察します。	口あるいは鼻から内視鏡を入れて食道と胃を観察します。がんが疑われる場合には組織をとって検査をします。	胸部X線写真を撮ります。50歳以上で、喫煙指数(1日の喫煙本数×喫煙年数)が600以上の方には喀痰検査の追加をおすすめします。放射線被ばくの影響はほとんどありません。	大腸がんやポリープによる出血が便に混じっていないかを2日分の便で調べます。採便後は冷暗所で保存します。(便の血液は、温度が高いほど短時間で変性しやすく、正しい検査ができない可能性があります。)	子宮の入口を特殊なブラシで擦って細胞をとり、異常な細胞がないか顕微鏡で確認します。性交渉がない方又は子宮全摘を受けた方は、検査の要否を確認する場合があります。	乳房を撮影台と板の間に挟み、乳房のX線写真を撮ります。放射線被ばくの影響はほとんどありません。妊娠中の方・ペースメーカー(リードスペースメーカーを除外する)を装着されている方は対象外です。
対象年齢	40歳以上		40歳以上	40歳以上	20歳以上	40歳以上2年に1回
精密検査	胃内視鏡検査、必要に応じて組織診検査		胸部CT検査	大腸内視鏡検査	膣拡大鏡検査・組織診検査	マンモグラフィ・超音波検査・細胞診検査
死亡順位(2022年) 「がん統計2024」	男:3位、女:5位		男:1位、女:2位	男:2位、女:1位	女:8位 (体部も含む)	女:4位
備考	胃がんは早期で見つかるとう9割以上が治ると期待されますが、進行した場合の予後は悪くなります。定期的な検診が重要です。		肺がんは日本人のがん死亡率の第1位です。自覚症状が出てからは治療がしにくいので、症状がないうちの早期発見が重要です。肺がんの予防には禁煙が極めて重要です。	大腸がんは日本人に増えています。とくに50歳以降の増加が顕著です。早期発見と適切な治療で9割以上が治ると期待されるので、定期的な検診が重要です。	子宮頸がんは若年化が進み、20~30歳代で増えています。早期ではほとんど自覚症状がないので、定期的な検診が重要です。子宮頸がんの多くは、性交渉によってヒトパピローマウイルス(HPV)に感染することが原因で起こります。	乳がんは30歳代後半から急激に増えます。また近年は閉経後の増加も目立つようになりました。定期的な検診が重要です。プレスト・アウェアネスなどの習慣も大切です。

がん検診には、がん死亡のリスクを減らす利益がある一方で、がんでなくても要精密検査となること(擬陽性)や、がんを見逃してしまうこと(偽陰性)などの不利益もあります。がん検診で大事なことは、①自覚症状がある場合は検診ではなく医療機関で検査を受けること②検診は定期的に受けること③要精密検査になったら必ず精密検査を受けることです。また、検診結果などのデータは市や医療機関等へ報告されますが、個人情報を守られます。